科目名				学年
知的財産法特論　Intellectual property rights S.T.				1K
教員名	堀田幹生　HORITA Mikio			
単位	授業時間	科目区分	授業形態	
2	100分×15回	選択	講義・前期	

授業概要	知的財産に関する基礎的な知識を踏まえた上で、より具体的な実例を通して、知的財産についての理解を深め、実践力を身につける

到達目標	評価方法
1. 特許法、実用新案法、意匠法、商標法のそれぞれの法域について、保護対象、登録要件、権利の内容について理解する。 2. 特許明細書の意義を理解し、特許明細書作成の基本を身につける 3. 権利侵害事件を想定して、権利行使の実際と防御方法について学ぶ。	評価方法は、①期末試験と②特許明細書作成演習により行う。評価配分は、①80%②20%とする

学習・教育目標	(c)④	JABEE基準1(2)	(b)

授業計画

回	項目	内容
第1	知的財産権全般	1知的財産権の種類 2特許制度の趣旨 3特許法上の発明 4特許要件としての新規性、進歩性 5外国出願
第2	特許要件	
第3	特許請求の範囲と権利内容	1特許請求の範囲と権利内容との関係 2特許権侵害の有無の判断手法 3利用発明
第4		
第5	特許明細書作成	1特許明細書の意義 2特許請求の範囲の意義(独立項と従属項) 3特許明細書の記載事項 4実例に基づく演習
第6		
第7	拒絶理由への対応	1特許出願から登録までの手続き、審査の流れ 2拒絶理由への対応策(補正等) 3実用新案制度の有効な利用法
第8	実用新案制度	
第9	意匠法	1意匠法の保護対象 2意匠登録要件 3意匠権の効力 4意匠法独自の制度 5意匠の類否判断 6著作権との相違
第10		
第11	商標法	1商標法の保護対象 2商標登録要件 3商標権の効力 4商標の類否判断 5商標法独自の制度
第12		
第13	権利行使の実際	1特許権の権利行使と防御方法 2商標権の権利行使と防御方法 3専用実施権と通常実施権
第14	実施許諾	
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。また授業評価アンケートを行う

自学自習の内容	レポート課題を課す
関連科目	
教科書	適宜プリントを配布する
参考書	
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う
副担当教員	武藤義彦
備考	